

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市国見児童館	
2 指定管理者	特定非営利活動法人 ワーカーズコープ	
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和4年度 17,169人(前年度比 112.7%) 令和3年度 15,233人 令和2年度 13,394人	
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 37,164千円 (26,395千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、地域懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行による利用情報の提供、外国人が多い地域性を踏まえた翻訳機器の用意等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。さらに子どもの意見を大切に、子ども会議をもうけて子ども自身が生活や遊びのルールを決めるよう支援するなど自主性や社会性を育てている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。 なお、職員における虐待や不適切な対応を防止する取り組みについてのマニュアル「職員における虐待等の不適切な行為に対する対応について」を作成し、職員会議やOJTを開催して職員間で周知共有、子どもの人権に十分に配慮するとともに、子ども一人ひとりの人格を尊重して支援が行われている。また、多国籍の児童が在籍しているという地域特性を生かし、ハラール食対応のカレーや宮城の郷土食を作って食べる行事を開催し、食を通して異文化への理解が図られるよう支援した。	20/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人 ワーカーズコープ）による自己評価》
<p>児童健全育成事業 コロナ禍、自粛の中でできることは定員を最低限に設定し、子どもたちの自主性を大事にやる気を引き出す工夫を試みた1年であった。「初夏のデザートを作ろう!」ではみんなであじさいゼリーを作って食べた。「光るスライムづくり」「イラストの森」は自分のセンスでイラストが描けたらいいよねを目標に講師を招いて企画した。そのなかでも、中学生の参加者を集めることに苦勞した。年度末に企画した中高生たいむ「やきそばやベビーカステラを作って食べよう!」では児童クラブの卒業生を対象に招待状を郵送し参加を募ったが、参加者は1名であった。</p> <p>子育て家庭支援事業 今年度から始めた「0ちゃんくらぶ」はコロナ禍で繋がりが希薄になったママたちの「聴いて!」「話したい!」という要望に応じて企画した。お茶を飲みながらマスクチャームやハロウィンの衣装を手作りした。ママたちの楽しく、ふれ合う場づくりを応援できるイベントになり、将来は子育て支援クラブを運営を託すことができたらと思っている。</p> <p>地域交流推進事業 いつまでもコロナ禍と言っていられない、という想いから法制化フォーラムで出会った支援学校を訪問し、交流の機会を得た。地域包括支援センター2箇所のヒアリングを行い、児童クラブを対象に地域の課題である「誰一人取り残さない社会」を理解するため「認知症サポーター養成講座」を開催した。地域の「防犯パトロール」にも参加し、地域の一員としての自覚が大事と感じた。</p> <p>放課後児童健全育成事業 「椎茸の植菌」を体験し、子ども達は2年後の収穫を楽しみにしている。子どもたちのやりたいを実現させるべく、くにみのおイモ作りでは、畑を耕し、種芋を植え、収穫をした野菜を使ってカレーパーティーや豆腐の白玉入りフルーツポンチとはっとを手作りし、はっと汁パーティーを開催した。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、外国籍の居住が多い地域である事を踏まえ、互いの文化の違いを尊重し知る機会となるようなプログラムを設定している。「食」の活動でははっと汁、ハラル食対応のカレー作りに多くの子ども達が参加し「食」を通じた異年齢・異国間の文化交流が見られ、子ども達の豊かな人間性や社会性が育まれている。また中学生から小学生と関わりたいという要望があり、遊戯室で運動遊びを通して交流した。また来館した中学生がアルバイトの大学生に進路や悩みを相談する等、職員とは違った関わり方で中学生の居場所をサポートした。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、利用者の要望から新規事業を立ち上げた「0ちゃんくらぶ」は0歳児親子の登録制のプログラムで、職員が託児、見守りを行い参加者同士が手作業を通してコミュニケーションを図り交流を深めた。定例行事への参加等リピーターも多く、地域の子どもと子育て家庭を支える役割を担っている。また外国籍の方とのコミュニケーションのツールとしてタブレット端末の利用や日本語教室を紹介した。パンフレットを準備する等、利用者への細かな配慮がなされている。</p> <p>地域交流推進事業においては、子ども達が地域の方と顔の見える関係性を築けるように地域の活動へ参加したり、地域の史跡めぐり等、積極的に館外で活動した。福祉施設のお祭りへの参加は、利用者との直接交流は叶わなかったが、児童館裏のどちの実を使ったフォトフレームを作り、お祭り当日の写真を入れて感謝の気持ちを届け非対面の交流を図った。地域との交流を広げ地域の取り組みや人と関わることで、地域への愛着が芽生えや子どもの意欲や自主性を育む取り組みを行っている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、子ども達が居心地よく過ごせる空間と時間に配慮し支援している。また、保護者に子どもの様子を丁寧に伝え情報を共有し安心して子育てと仕事が両立できるように支援している。</p>	S

ko

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課